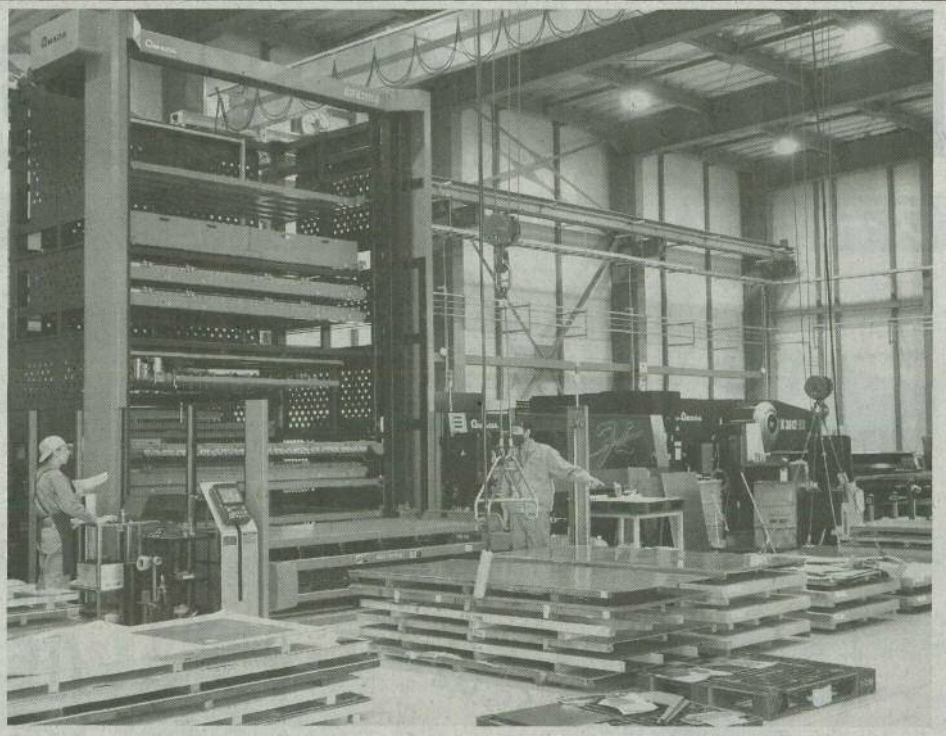
日刊工業新聞
THE NIKKAN KOGYO SHIMBUN
3月18日金曜日
2022年（令和4年）



新設したパレットチェンジャー

現場 最前線をゆく □33

コンチネンタル／立山工場

鋼板抜き加工

夜間に無人作業 加工量倍増

工作機械のカバーや電気機器の筐体（きょうたい）などの板金加工を手がけるコンチネンタル（富山市、岡田俊哉社長）は、2021年9月に立山工場（富山県立山町）を稼働させた。新工場内には本社工場から移設したタレットパンチプレスやレーザー加工機、マシニングセンター（MC）などが居並ぶ。そして、レーザー加工機のそばには、新設したパレットチェンジャーがある。

「これで無人加工が可能になった」（岡田社長）。パレットチェンジャーに鋼板を設置しておけば、夜間にレーザー加工機が自動で加工をする。以前は日勤のみだったが、立山工場では昼間に人手が必要な手のかかる作業をし、自動化しやすいものは夜間に回すことで「加工の量を倍にできた」（同）。

立山工場が担う工程は「抜き加工」。鋼板に機械加工を加えて半製品の状態にする前工程だ。曲げ加工や溶接の後工程は本社工場で実施する。かつては前工程も本社工場で行っていたものの業容拡大に伴い手狭になり、作業場所を確保するのに、仕掛品を建屋から一度外に出していた。この工程を立山工場に移して、仕掛品を出し入れする手間を省いた。

同社は常時、約170種類の鋼板の在庫を持つ。本社工場では、それらを単に倉庫に積み上げていたため、鋼板を使う際に、まず必要な鋼板を探し、その上にある鋼板を移してから、目当ての鋼板を引き出していた。これを立山工場では加工する鋼板を種類ごとに棚に配置。取り出し作業も格段に楽になった。

「目的の一番は合理化。無駄を省けば利益に変わる。会社を強くする効果がある」と岡田社長は新工場の意義を強調する。コロナ禍で一時は受注量がピーク時の半分以下になったが、現在は「コロナ禍前の水準に戻してきた」（同）。効率を高めた新工場で、さらなる飛躍を目指す。

（富山支局長・江刈内雅史）

（金曜日に掲載）